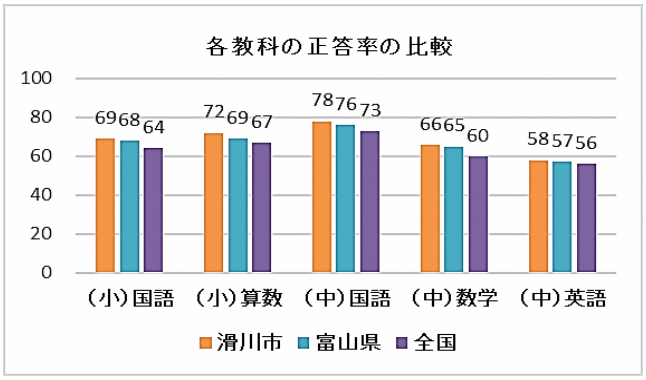
滑川市の児童生徒の学力について

平成 31 年度全国学力・学習状況調査の結果、分析より　　滑川市教育委員会

本年４月 18 日に全国学力・学習状況調査が実施されました。この調査は、児童生徒の学力や 学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的として行われているものです。本市でも小学校６年生 260 名、中学校３年生 280 名が調査に取り組みました。今年度は、これまでのＡ問題（知識に関する問題） Ｂ問題（活用に関する問題）が統合された内容の設問に変更されました。また、中学校で初めて英語の調査が実施され、同時に「話すこと」の調査をコンピュータを使用して解答する形式で実施されました。滑川市教育委員会では、今年度の結果を分析し、各小中学校と連携し滑川市の児童生徒の学力や生活習慣の特徴と改善策について検討しました。

結果から分かる児童生徒の学力のようす



小学校

・各教科の正答率を比較してみると、国語、算数ともに全国を５ポイント上回っており、良好な結果と言えます。これは、毎年、各校が自校の結果分析を行い、課題に対しての授業改善や指導法の工夫を行い、低学年時から全校で学力向上対策に取り組んできた結果であると考えます。

・国語の結果を学習指導要領の領域別に見てみると、全ての領域で全国の平均正答率を１～７ポイント上回っていました。しかし、「書くこと」や「読むこと」の設問の一部に、正答率の低い設問がみられました。目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にして書くことや、文章の内容を的確に押さえながら読むことが苦手なようです。 日頃から、目的に応じて必要な事柄を読み取ったり書き出したりしながら、分かったことや考えたことをまとめる活動を多く取り入れることが必要であると分かりました。

・算数においても、すべての領域において全国の結果を２～８ポイント上回りました。しかし、複数の領域において、数学的な考え方を問う設問（図形の面積の求め方や計算の仕方などを解釈し言葉や数を用いて説明する設問）に課題がみられました。普段から、式をつくったり求め方を考えたりする過程を大切にし、発表するだけでなく、記述することも重視する必要があります。

中学校

・中学校においても、全ての教科で全国平均を２～６ポイント上回り、おおむね良好な結果でした。これは、小学校段階で培われた基礎学力を大切にし、さらにその力を伸ばすために、授業改善や少人数指導を効果的に活用してきた結果であると考えています。また、４年前より小中連携コーディネーター（中学校教諭）を配置し、小中学校が連携した学習指導に努めたり、中学校の教員が協力して落ち着いた学習環境をつくり、授業を行ってきたりした成果だと感じています。

・国語はすべての領域において、全国の平均正答率を２～６ポイント上回っていましたが、「話すこと・聞くこと」の中には全国平均よりも高いものの、比較的低い正答率の設問がありました。話合いの流れを踏まえて自分の意見をもつことが苦手なようです。必要に応じて話題について確認したり、経過を捉えたりするような話合い活動を設定することが重要です。

・数学は、全ての領域で全国の平均正答率を上回っており、２～６ポイントの差がありました。少人数授業の実施や ICT 機器を授業に効果的に活用するなど、一人一人の理解を深める分かりやすい授業へと改善した成果だと考えます。しかし、「関数」に関する設問に、一部課題がみられました。日常生活に即して、問題解決の方法や手順を数学的に説明する場面を設定する必要があります。

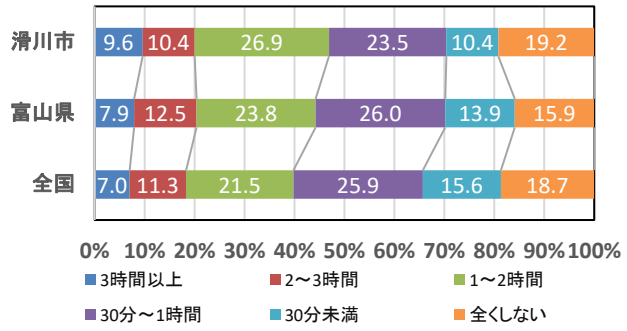
・英語では、「聞くこと」に課題がみられました。約 30%の生徒が英語の 13 と 30 の違いを聞き取ることができませんでした。また、「聞くこと」と「書くこと」の統合的な設問では、正答率が低く、無解答率が高いという結果でした。２学期より増員した ALT を授業に効果的に活用し、ネイティブの発音を聞き取ったり、目的や場面に応じた会話を行う機会を作り出したりする必要があると考えられます。

【学習指導要領の領域】　国語(小中共通)・・・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」
算数・・・「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」　　数学・・・「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」
英語・・・「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」

質問紙から分かる児童生徒の生活のようす

小学校

1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか

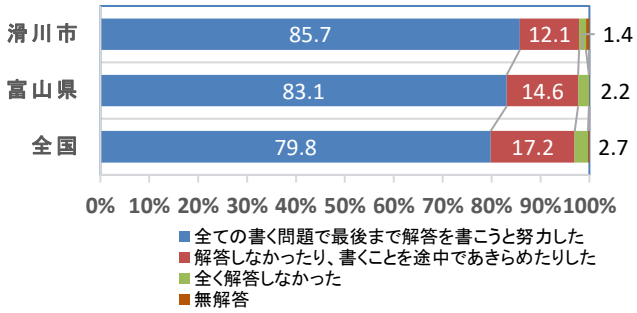


児童生徒質問紙の結果からは、約47%の児童が、1日、1時間以上の読書をすると答えています。全国よりも7ポイント高く、滑川市の子供たちは読書好きであることが分かりました。一方、全くしない児童も多く、読書の習慣付けを家庭と連携していく必要があります。読書は単に知識を増やすだけでなく言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、豊かな創造力を培うことができます。ぜひこの習慣を大切にしてほしいものです。

「家の人と学校での出来事について話をする」と答えた児童は、全国・県平均よりもわずかに低い結果でした(昨年度も同様に低い結果でした)。子供との会話の機会を増やすことは、子供たちの穏やかな心や安心できる環境をつくることにつながります。

中学校

国語の解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか



中学校国語「書くこと」の調査において、約86%の生徒が、最後まで解答を書こうと努力していたことが分かりました。小学生ではさらに高く92%の児童が、最後まで書こうと努力しており、市内の児童生徒は、最後まで課題に取り組む粘り強さをもっていることが分かりました。

授業以外の1日当たりの学習時間を比べると、2時間以上学習していると答えた生徒は、全国平均では約36%だったのに対し、本市の中学生は8ポイント低い結果でした。また、約9%の生徒が30分未満ということも分かり、昨年同様に家庭での時間の使い方を見直すことが必要です。

今後の取組について

今回の調査結果を踏まえて、以下のことについて、新たにまたは継続して取り組むことにより、児童生徒の更なる学力の向上や充実した学校生活をサポートします。小・中学校と、家庭や地域が共にスクラムを組み、それぞれの役割を果たしていくことが大切です。

学校、教育委員会

- 複数の情報や資料を読み取り、自分の考えを整理して表現する活動を多く取り入れ、読解力や表現力の向上に重点を置いた指導を行います。
- 目的、場面、状況に応じて既習の知識を活用できるように学習内容の工夫を加えます。
- 外国語指導助手(ALT)と児童生徒との会話やコミュニケーションを、授業や学校生活の中で積極的に増やしていきます。
- 授業改善や学級づくり等の教員研修を充実させます。
- 児童生徒一人一人のよさを見付け、褒める機会を更に増やします。
- 基礎知識や基礎的技能の更なる定着を目指し、家庭と連携して家庭学習の課題を見直します。
- メディアの利用の仕方や使用時間の指導を継続して行います。

滑川市の児童生徒の学力の向上

家　庭

- 学校と連携した家庭学習の充実を図りましょう。
- 規則正しい生活習慣を定着させましょう。
- メディア利用についての約束や指導をしましょう。
- 家庭での手伝いや役割分担を通じ、人の役に立っているという「自己有用感」や「自己肯定感」(自尊感情)が高まるようにしましょう。

地　域

- 地域の多くの大人の目で、子供たちを見守っていきましょう。
- 地域行事では、子供たちの活躍の場を多くつくりましょう。
- 学校の教育活動に更なる連携と協力（出前授業の講師や学校行事への協力等）をお願いします。